

Q やさしさがあふれる 鶴ヶ島市を

高田 たかだ 克彦 かつひこ
議員



A 実情を把握しながら 支援に努める

問 若い世代への社会教育的課題にどう向き合うか。

答 専門的相談、若い世代の交流会や家庭教育に関する学習機会等の提供等に努めている。社会教育活動の充実にも引き続き取り組む。

問 子どもの生活実態の把握は。

答 子どもの生活実態の把握は、家庭には、就学援助制度で無償にしている。平成30年7月公表の文部科学省の調査結果では、小・中学校ともに無償化を実施する自治



体は、全体の4・4割であった。学校施設の環境改善など、今後も多額の費用が必要となるが、無償化には毎年度約2億8000万円の財源が必要となるため、現状では無償化の考えはない。

問 国民健康保険税の引下げを。

答 保険税率は、今後、埼玉県から示される標準保険税率等を参考に検討し、国保特別会計財政調整基金の活用で上昇の抑制を図る。

◎**その他の質問** 農大跡地と周辺地開発問題について

Q 自転車条例とヘルメット着用の普及

やまなか もとみつ
山中 基充 議員



A 県条例で今後も対応し、鶴中の取組を他校でも進めたい

問 24年、富士見中学校の男子生徒が、チャレンジ学習で消防署に向かう途中に交通事故で亡くなり、事故発生地の坂戸市では、26年に「坂戸市自転車の安全な利用に関する条例」を制定した。しかし、本市では未制定である。

答 埼玉県条例のヘルメット着用の努力義務、保険加入の義務に対して、鶴ヶ島中学校では保護者の負担で生徒がヘルメットを購入するなどの対応をしている。市としての条例の制定、保護者への助成が必要ではないか。

問 24年、富士見中学校の男子生徒が、チャレンジ学習で消防署に向かう途中に交通事故で亡くなり、事故発生地の坂戸市では、26年に「坂戸市自転車の安全な利用に関する条例」を制定した。しかし、本市では未制定である。

答 「埼玉県自転車の安全な利用の促進に関する条例」に、自転車保険への加入の義務化や乗車用ヘルメット着用の努力義務があるため、現段階では、市独自の「自転車の安全な利用に関する条例」の制定の予定はない。鶴ヶ島中学校では、29年度から保護者負担でヘルメットを購入し、教育活動中の自転車利用の際の着用を義務とした。また、自転車通学者の保険加入についても徹底している。各学校のPTAとも連携を図り、他の学校でもヘルメット着用推奨の取組を進めたい。

◎**その他の質問**

- 一 市HPのアクセシビリティ
- 二 つなぐシートでの生きる支援
- 三 SDGsと自治体の関わり



自転車での下校